

# 知事記者会見の概要

日 時：令和4年4月14日(木) 10:00～10:50

場 所：502会議室

出席記者：14名、テレビカメラ5台

## 1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、代表・フリー質問に知事が答えて閉会した。

## 2 質疑応答の項目

### 代表質問

- (1) 新型コロナ対策認証制度について

### フリー質問

- (1) 今後の感染防止対策について
- (2) モンテディオ山形の新スタジアム建設について
- (3) 代表質問に関連して
- (4) 参議院議員選挙への対応について

<幹事社：山新・時事・SAY>

## ☆報告事項

皆さん、おはようございます。桜が開花し、満開近くなりまして、山形市内ですけれども、お花見のシーズンとなりました。ですが、今日から花冷えとなるようでありまして、低温となりそうです。低温が続きますと、凍霜害の心配が出てまいりますので、果樹農家の生産者の皆さんには、くれぐれも注意をされまして、できる限りの対策を行っていただきたいというふうに思っております。

さて、新型コロナについて申し上げます。4月に入り、全国では感染再拡大の傾向が見られます。また、岩手県や秋田県、福島県、新潟県などの近隣県では1日の新規感染者数が過去最多になる日が見られるなど、予断を許さない状況にあるものと考えております。

県内の感染状況ですが、新規感染者数が12日から200人台となっております。依然として高止まりの状況となっております。いわゆるBA.2への置き換わりも、直近（3月28日～4月3日）のサンプリング調査で50%となるなど、相当進んでいるものと思われま

す。本県の累計感染者数は約2万人となりました。これは県民の50人に1人が感染したというようなことに計算ではなりません。そしてですね、これまで83名の方がお亡くなりになりました。第6波におきましては、27人お亡くなりになっておりまして、50代の方がお一人、70代以上の方が26人となっております。改めてお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りいたします。

なお、本県の病床使用率ですが、20%台で推移をしております。直ちにひっ迫する状況にはないものと考えております。ですが、このままの感染状況が続きますと高齢者に感染が広がって、命に関わるおそれが出てまいりますので、高齢者に感染しないように対策をする事が重要でございます。それで、県ではこれまで、高齢者施設などに抗原定性検査キットを配布してきたところでございます。また、併せまして、3回目のワクチン接種、これがやはり感染拡大防止の要となるものでありますので、市町村と連携して、促進を図ってまいりました。直近ですけれども、3回目のワクチン接種率、山形県は全国第3位になったということでもあります。県民の皆様、市町村、関係機関の皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。

新学期やお花見シーズンを迎え、人が集まる機会が増える時期でありますので、県民の皆様には、基本的なエチケットとして、改めて不織布マスクの着用や、こまめな手洗い、消毒、密閉・密集・密接の全てを避けるゼロ密、換気の励行などを徹底して下さるようお願いいたします。また、お花見をする際には、各会場でのルールをご確認いただき、感染防止対策をしっかりと講じていただきながら、楽しんでいただきたいというふうに思っております。私からは以上です。

## ☆代表質問

記者

さくらんぼテレビの高橋と申します。よろしく願いいたします。

今日は県の新型コロナ対策認証制度についてお尋ねします。飲食店ですとか宿泊施設を対象にした県の認証制度がスタートして、およそ一年経過したところです。もともと目的としていた感染対策をしながら経済を回すという点で、知事はその効果をどのように見てらっしゃるかを教えてください。併せて、一年間の中で見えてきた課題というものもあれば、教えてください。

知事

はい、わかりました。お尋ねの山形県新型コロナ対策認証制度でありますけれども、県内外の方が安心して飲食や宿泊ができる環境を整備し、観光振興や経済回復に寄与することを目的に、令和3年4月26日から制度を開始いたしました。約一年が経過したところでございます。令和3年度末、今年3月31日までに、4,492施設から申請がありました。その内、4,050施設を認証したところでございます。この間、認証店でのクラスターの発生は1件のみにとどまっております。約一年経つのですけれども、1件のみということでありませぬ。

これは、県内全域で認証店の皆様が感染防止対策にご努力をいただいていることや、利用される方々の意識が高まったことなどが要因として挙げられると思っております。飲食店における感染拡大防止に大きな効果があったものと考えているところです。

一方、課題としましては、制度を開始した当初は、認証取得に積極的な地域とそうでない地域、いわゆる地域間格差がございました。これまで、市町村や関係団体と連携し、各地での説明会を開催したり、職員が直接店舗を訪問して周知活動などを行ってきたところであります。制度の周知が進むにつれて、地域間の格差が縮まってきておりますが、引き続き周知活動に努め、新規認証店を増やしていきたいというふうに考えております。

また、新型コロナは第6波の最中にありまして、感染防止対策が長期化しておりますので、認証店において認証基準が維持されているかどうかを確認する必要があると考えております。このため、今年度は、既に認証を受けている店舗に対して、適切な感染対策の維持と認証制度の実効性確保のための「再確認調査」を実施し、感染防止対策に「ゆるみ」が生じないように努めていきたいというふうに考えております。

更に、感染を拡大させないためには、認証店側の感染防止対策だけでなく、認証店を利用する方々のマスクの着用や手指消毒などの基本的な感染防止対策の協力を、飲食エチケットとして求める広報活動にも力を入れていきたいというふうに考えているところでございます。

記者

ありがとうございます。対象施設の母数としては6,500件くらいあって、その中で4,050件の認証が出ているということで、割合にすると60%を少し超えたくらいかと思っております。一つモデルにしている山梨の「やまなしグリーン・ゾーン認証」制度ですか、こちらは一

時期9割程度あったということだったと思いますけれども、こういったものと比べますと山形の数字というのは、制度も違うので何とも言えない部分もあるかもしれないのですが、どのように受け止めていらっしゃいますか。

知事

そうですね。やはり当初は周知がされていなかったというのが大きいかなと思っています。周知されていなかったことと、認証ということに対してですね、あまり積極的でなかったお店も多かったと。現場を訪問して聞いてもらって分かったのですが、認証してもされなくても大して変わりはないというふうにお考えになっていたり、認証されるとお客さんの収容人数というのが半分になるとかですね、そういったことに対するご心配といったことが多かったと。それから、設備の導入に対する補助といったことが知られていなかったというようなこともあったというふう聞いておりますので、様々な要素があったかと思いますが、ただ、まん延防止等重点措置をやりましてからですね、割合その急速にと言いますか、認証を取ったほうが良いこともあるということも分かったということが大変大きいというふうにも聞いているところです。全体としてもっとやはり8割9割まで、100%が望ましいのですけれども、やはりまだ発展途上と言いますか、8割は超えたいなというふうに思っているところです。

記者

我々が取材を、例えば飲食店さんにした中でですね、認証を得たけれども、例えばまん延防止等重点措置の期間であれば協力金があったけれども、それが終わってしまい、クラスター抑制重点対策の期間になってしまうと、そういった協力金というものがなくなってしまったと。こういったタイミングでこの制度自体にメリットを感じないと思ってしまうような施設も多くあったというふうに声があったんですけれども、そういったところについてはどのように受け止めていらっしゃいますか。

知事

そうですね、どうしても感染者数が増えますと人出が少なくなりますので、来店されるお客さんも少なくなっていく、それで経営が大変になるということになる、その繰り返しかなと思っています。

ただ、ウィズコロナというようなことで、基本的な感染防止対策をですね、エチケットとしてこれから定着させていく中では、やはり認証店という安心できる環境の中で飲食してですね、楽しんでいただくというようなことになっていくと思いますので、中長期的にはやはり認証することのメリットが出てくるんだと思います。

最初の頃はやはり何もかにもが恐怖だというようなことで、広がったらもう出ないというようなそういうことがやはり何回も続いたわけなんですけれども、これからやはりでき

る限り日常生活を取り戻していくというような段階になっていきますと、感染防止対策をしっかりといただいている認証店を利用するのが楽しい飲食というようなことになっていくと思いますので、やはり認証を取っていただいて、県民も、また県外の方も安心して飲食できる環境を増やしていきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。

☆フリー質問

記者

NHKの金敷です。よろしくお願いします。

コロナの関係で何点か伺わせてください。冒頭、知事の発言の中で、まず一昨日が235人、昨日が253人と200人を超えているというお話がありました。この数字なんですが、先月の後半から200人台というのがパラパラ出てきている状況で、第6波のピークの時期の水準にまた戻りつつあるんじゃないかと、再拡大の懸念ということで最初におっしゃっていましたが、まずここについての所感を改めて伺わせてください。

知事

はい。大変、私も心配をしているところです。100人台となって2日ほど2桁台にもなったんですけども、そのまま減少してくればいいなと祈るような気持ちでありましたけれども、あにはからんや、100人台、200人台ということになりまして、100人台がしばらくこのところ続いてきたんですけども、またこの2、3日、200人台となってまいりまして、この第6波の特徴はクラスターが多いということだとも思っていますが、最近も本当にクラスターが多発しておりまして、大変懸念をしております。

それで、その原因として考えられるのはやはりBA.2への置き換わりではないかと思っております。直近のサンプリング調査が3月28日から4月3日までの調査で50%になっているんですけども、そのあとの1週間の調査がですね、明日出るというふうに聞いておりますので、その数字を注視したいというふうに思っています。

やはりBA.2への置き換わりが進む中で、またクラスターが多発して感染が増えて拡大していくということが懸念される、そういう状況ではないかというふうに今懸念をしているところであります。この200人台が続いたということに対しての私の思いはそこです。

記者

わかりました。それで、世間というか東京のほうの話になってきますけど、第7波に入ったんじゃないかという専門家の意見とかも出てきております。知事のお考えとして、県内の話ですが、第7波に入ってきているんじゃないかというお考えがあるのか、第6波が一旦収

束、さっきおっしゃった2日間、2桁になった日、あの辺で一旦収束したと見ているのか、収束しないまま、また次のステップに行っているというふうに感じているのか、そのお考えを伺わせてください。

知事

そうですね、まず明日のそのBA.2の直近の1週間の数値というのを見てみたいと思いますし、あと数日この200人台が続くのかということもやはり見てみないと私から何とも言えないところであります。ここ数日やはり注視をして、内容も見ながらですね、そして医療専門家の方のお話も伺って、それで第7波に当たるのか当たらないのか、そういったことをやはり検討していきたいというふうに考えています。

記者

ありがとうございます。先ほどクラスターが多いというところで、昨日一昨日は7件8件、1日で発表がありました。このところを見ると、やはり学童施設、保育施設というのが目立っております。そういう施設での対策等々、何か改めてお考えがありますでしょうか。

知事

はい。おっしゃるとおりですね。最近学童保育でありましたり、様々な子どもさんが通っているところが多いなというふうには見ております。あと、学校も少し出てきておりますね。そういったことを考えますと、やはりどういうことができるかということでもありますけれども、保育施設と高齢者施設に対してですね、抗原定性検査キット、これをですね、配布するということを決めまして、配布をしております。

小さなお子さんには、やはり自分でそれを検査することはできないということでもありますのでお子さん方ご自身は医療機関ということになるんですけども、そこ（保育施設及び高齢者施設）でお仕事に従事していらっしゃる方々にはですね、検査キットをやはり有効に活用していただいて、少しでも早く、早期発見・早期療養ということで拡大を少しでも防ぐということをやりたいというふうに思っております。

特に、今記者さんは高齢者施設の方をおっしゃいませんでしたけども、命にかかわるといのがやはり高齢者施設でありますので、そこは本当に力を入れてですね、検査キットやPCR検査といったことを大いに、無料でありますので活用していただいて、未然に感染拡大を防いでいただきたいと思っております。

記者

すいません、このあと伺おうと思っていたのですが、高齢者施設についてなんですが、先週ですか、高齢者施設に実態調査、要は感染者が出た時の対応についてということで調査をされているという報道を見まして、その結果というのを何か聞いているかどうか。また、そ

れで実際私どもが取材している中で、感染者が出た時にやはり施設側としては医療施設に入院させてほしいというご意見が多かったんです。やはり施設内に医療関係者がいるとしても対応しきれないという意見が多かったんですが、そのあたり、知事、今後の対応等々何かお考えがありますでしょうか。

知事

はい。施設内でやはり感染者が出ますとですね、まずは保健所が行きまして、様々なその調査と言いますか、指導といったことを行うと聞いております。

その施設の種類にもよるかと思えますけれども、お医者さんがいるというようなところでは、やはりそこを動かさないでというとおかしいんですけども、その施設内でしっかり対処をしていただくということが今まで多かったかと思えます。

それで、医療資源が本県は不足しがちなものですから、そこにどうやって応援体制を作るかというような状況の中で応援もしてきたということを医療統括監のほうからも聞いておりますので、すぐ全部入院させることができたかというところでもないというふうに思っておりますけれども、入院ということになりますと、やはり一般の病院のほうに入院しますと、一旦入院するとなかなか退院ができなくなるというようなことありまして、そこがやはり医療提供体制のひっ迫につながるというようなことになるんだと思えます。

それでその兼ね合いと言いますか、そこがやはり非常に悩ましいところではないかというふうに思っております。一般の医療との兼ね合いも非常に難しいものがあるんですけども、コロナウイルスという病気の中でもですね、やはり非常に医療資源が少ないという中でどうやって持続的に医療提供体制を（確保）していくかということになりますので、やはりその施設等、病院とのやり取りと言いますか、保健所とそれから医師との様々な話合い、相談のもとでこれまでも地区医師会のお力もお借りしながら、これまで乗り切ってきたというふうに思っております。

100%ご希望に添えなかったというようなこともあるかと思えますけれども、その辺はですね、やはりなかなか悩ましいところだなというふうにも思っております。

記者

山形新聞の田中です。

知事、冒頭でも発言がありましたが、コロナの累計感染者数が間もなく2万人ということになります。

令和2年3月31日に県内で初めて1人目の陽性者が確認されて約2年になりました。この間、新しい変異株の登場で県内の感染者というのは加速的に拡大していつている、最初100人に到達するのに何十日かかっていたものがもう1日、例えば3日で1,000人をクリアしてみたりとかですね、そういう加速的に広がっている。

この流れの中でですね、知事もおっしゃられた第7波、第3波から第4波の時はデルタの置

き換わりによってそのまま第3波と第4波はつながったという状況になりました。

今回のBA.2も1週間、2週間ほど前に3割程度と言っていたものが今は5割と、この感染の拡大の速さというものをまずは知事はどのようにお考えになっているのか。

あと、経済との両立を目指す中で、どのような感染抑止のほうの対策ですね、図っていく必要があるのか、その辺を教えていただければと思います。

知事

はい。第6波になりましてから、オミクロン株のBA.1系統だと思いますけれども、その感染力の強さというものはですね、日々公表される新規感染者数でもおわかりのように、これまでとは違った本当に感染が拡大するスピードが速いなというふうに思っております。

そうしたところ、BA.2はさらにその1.2倍というようなことで感染が広がるというふうに聞いておりますので、本当にそれに置き換わりつつあるのではないかとというふうに懸念をしているところであります。それが明日のサンプリング調査の結果であったり、またその200人台がどのくらい続くかというようなことで、やはりはっきりしてくるんだというふうに思っています。状況としてはそういう状況であります。

あと、経済回復とどういうふうに両立していくかということでもありますけれども、2つありまして、やはり1つには基本的な感染防止対策、これをもう本当に日常的なエチケットとして、皆さんがしっかりと励行して守っていただくということが大事だというふうに思っています。ご自分の身を守るためにも、また周りの大切な方々を守るためにもですね、その基本的な感染防止対策をしっかりと守っていただく、事業者のガイドラインというものもしっかり守っていただく、徹底していただく、遵守していただくことが大事かというふうに思っています。

もう一つのほうは、やはり3回目のワクチン接種であるというふうに思っています。たとえ感染しても重症化は防げるということでありますので、本当に多くの方が一日も早く3回目の接種を受けていただきたいというふうに思っています。もちろん、お体の都合で受けられない方に無理には申しません。そこはやはりその方のお体の具合ということもあるかと思っております。

あと、様子を見ていた方々もいらっしゃると思いますので、1回も接種していないという方も、今回感染した中でですね、未接種という言葉を使っていますけれども、1回も接種していない方が感染したということも情報として聞いておりますので、今からでも遅くはありませんので、1回目から始めていただくのも大丈夫ですので、ぜひお考えいただきたいというふうに思っています。

そのワクチン接種ということとですね、基本的な感染防止対策をしっかりやるという、この2本立てでやはりしっかりと感染拡大の防止、あるいは重症化の防止ということに力を入れながら、できる限り日常生活に近い生活をしていく、そういう期間になるんだというふうに思っています。



観光ということでも、「やまがた春旅キャンペーン」も始まっております。「GoToトラベル」がいつから始まるかは、ちょっとまだ分かりませんが、旅のエチケットをしっかりと守っていただきながら、楽しんでいただくということも大事かというふうに思っています。

そういったことをやりながら、経済回復とも両立をしていければというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。もう1点。今、知事からも「やまがた春旅キャンペーン」であるとか、「GoToトラベル」はいつからか分からないけど、という話もありました。

来週再来週からですね、ゴールデンウィークに入ってきます。最初の年は、全国、いわゆる緊急事態宣言のような形で、全く完全にストップしてしまって、昨年も断続的にはありますが、年末であるとかですね、様々行動制限がとられてきました。知事がおっしゃられた、例えば、ウィズコロナ、ポストコロナを見据える、経済活動との両立を目指す、今回、コロナ禍3年目に入ってくるゴールデンウィークのその対策というものが、一つのポストコロナ、ウィズコロナを目指す上での試金石になるのかと思います。そのゴールデンウィークに向けてですね、県としてこれから検討になるのかもしれませんけれども、どのような、両立を目指す上でのですね、対策、経済活性化策、この辺を考えていかれるのか、もしくは今お考えになっているのか、あれば教えていただければと思います。

知事

はい。ゴールデンウィークが近づいてきておりますけれども、そうですね、お答えを申し上げますれば、検討段階ということをお願いしたいというふうに思っています。

ゴールデンウィークを含め、今後の感染防止対策につきましては、オミクロン株、いわゆるBA.2系統などの変異株の特性にあわせて、新規感染者数やクラスターの発生状況、首都圏や近隣県の感染状況、また、病床使用率や重症病床使用率などの医療のひっ迫度合いを踏まえ、医療専門家の方々や本日開催の新型コロナ克服・創造山形県民会議で各界のトップの方々のご意見もお伺いしながら、感染防止対策と経済回復の両立に向けて、適時適切に対応してまいりたいというふうに考えているところです。

記者

河北新報の原口です。お疲れ様です。

モンテディオ山形の新スタジアム構想についてお伺いしたかったのですが、先週、モンテディオの要望に対して、県有地の提供ということで協力という話になったと思うのですが、決して狭くない県有地を提供するというので、スタジアム構想を後押しするという形になったと思うのですが、そういうふうにご決断された理由をちょっと教えても

raitai no desu keredo mo.

知事

はい。スポーツは県民に大変大きな活力・元気を与えてくれるというふうに思います。また、県内外からですね、多くの皆さんが応援にお集まりになって、大変経済的にもやはり資するところもあるというふうにも思っています。プロスポーツでありますけれども、一生懸命活躍している、努力している、そういった姿はやはり子ども達にとっても憧れであったり、いろいろな示唆と言いますか、希望や元気というものを与えてくれているというふうに思っています。

そういう中の一つであります、モンテディオ山形でありますけれども、ライセンス（Jリーグのクラブライセンス）というような事情も、期限があるというようなことも聞いておりましたので、「あそこの土地にスタジアムを建てたいので、その土地の使用についてご協力を」というふうに申し出がございました。そのことについて、様々検討いたしまして、モンテディオ山形というサッカーチームがですね、これからも活躍をしていただく、県民から愛されるチームとして、また子ども達からも憧れのチームとして、山形を冠しているわけですから、全国的にもPRにもなるわけでもあります。そういったチームでありますので、土地の使用ということについて、様々ご意見も、内部で議論もしましたし、いろいろと考えて、「あそこが希望だ」というようなご希望をですね、モンテディオ山形とそれから天童市長もいらっしゃいました。あと、新スタジアム推進事業株式会社の代表の方もいらっしゃいました。3人の方で要望に見えられまして、それをお聞きして、「ご協力します」ということを申し上げたところであります。

ただ、総合運動公園は県民のものでありますので、県民があそこを利用する時にですね、駐車場が今よりも少なくなるというようなことは望ましくないなというようなことを申し上げましたらば、それは天童市さんのほうで確保しますと。「少なくなる駐車場については確保します」というようなお話もありましたので、それではということで「ご協力をします」というふうにお答えを申し上げました。

ぜひあそこで活躍をしていただきたいというふうに思っております。

記者

あとすいません、これから令和7年の運用開始に向けて、事業計画とか固まってくると思うのですけれども、県として整備にどういうふうに関わっていくかという、何かそういう考え方ってございますか。

知事

いえ、それはまだ何もお話も聞いておりませんので、私どものほうから、「こうする、ああする」ということは考えておりません。

記者

ある程度応分の負担ということの考えというのはどうでしょうか。

知事

応分の負担ってどういうことでしょうか。

記者

整備費に関して、公設民営と最初に話があったと思うのですがけれども、今はちょっとまだどうするか検討されている状況だと思うのですがけれども、県としてもある程度抛出する可能性があるのかどうかというのはどうでしょうか。

知事

公設民営というお話はなくなったと聞いております。

記者

わかりました。

記者

NHKの桐山です。

最初のやりとりの中で、認証店の、県の認証制度の話で、第6波が長期化していて、再確認、調査を行うということをおっしゃいましたが、これはもう行う時期は、いつから始めるというのは決まっているのでしょうか。また、決まっていないのであれば、いつ頃始めたいとか、そういったお考えがありますでしょうか。

知事

はい。いつからというのは、ちょっとまだ私、聞いていないところであります。こういうことをしっかりやっていかなければならないね、ということで、内部で議論をして、そういうことになったということを知っています。

記者

いつ頃からというのは、全くまだこれからという感じですかね。

知事

はい、担当おりますので、後でじゃあ、聞いていただければと思います。

記者

はい、わかりました。

記者

毎日新聞の熊田です。よろしくお願いします。

3月の末に山形に引っ越してきました、2週間を超えたところなのですけれども、コロナ対策について、2点ほどお伺いしたいのですけれども、まず1点目はですね、山形県それから山形市のコロナ陽性感染者の発表を日々見ているのですけれども、山形県の場合、重症者の数というのは、4月になってからずっと1桁台なのかなというふうに見ている、ちょっと見落としがあるかもしれないのですけれども。一方で亡くなられた方が、昨日ですとお二方というふうな形で、重症者の数に増減があまりない中で、亡くなられた方が出ていらっしやると。これは、重症ではないけれども、中等症だった方が急変されて亡くなられたというようなことなのか、もしくは、重症だった方が寛解して軽症になって、残念ながら亡くなられたとか、その辺の数字のバランスが今のような数字の推移になっているのか、ちょっと私も新参者なのでよく分からないのですけれども、もし知事のほうで上がってきている情報があつたら、ちょっと教えていただきたいのですけれども。

知事

はい。確かにですね、全部の情報は私にも分からないんです。と言いますのは、例えば重症で入院している方というのは、1名とか2名とかのそういう数字なのでありますけれども、それで重症であった方が亡くなったということであると、情報として来るのですけれども、それ以外で亡くなる方が結構多くてですね、それについては、ご家族の方のご要望ということで、プライバシーというようなこともありまして、詳しいことが、例えばほかの病気もあってとかですね、そういったことがちょっと分からないんです。それで毎回発表するというのもいなくて、5人、確か5人か10人くらいになると、年代別というようなことで公表しているということだったと思います。

それ以前は全く公表しなかったのですけれども、ただ、そういったこともちょっと公表したほうがいいのかという、県民の皆さんのご意見もあつたりして、なるべく個人が特定されないような形であればというようなことで、年代を5人か10人くらいになると、公表していたと思います。

今日、私も冒頭申し上げましたけれども、50代の方お一人でありますけれども、あと70代以上の方が26名というようなことで、第6波に関してですけれども、そういう状況であります。それ以上のことというのは、私のところに、実は年齢はくるのですけれども、ただ「公表しないでほしい」という、ご家族の皆さんのご希望があるというようなことがありますので、ご理解いただきたいというふうに思います。

記者

ありがとうございました。もう1点。これは3回目接種の件でお伺いしたいのですけれども、先ほど知事から、現時点で、山形県の3回目のワクチン接種率が全国3位、というふうなお話を伺ったのですけれども、3回目接種が始まるにあたってですね、全国的に県民市民の方々の（ファイザーとモデルナの）交互相種への抵抗感というのが、3回目接種の進捗がなかなか進まない理由の一つにあがっていたと思うのですけれども。これもちょっと新参者でよく分からないのですけれども、山形県さんの場合はですね、そういう県民の方の懸念を払拭して「3回目接種、皆さんやってください」というような施策、呼びかけ等をされて、今の進捗率になったのか、その辺ちょっとお聞かせいただければと思います。

知事

そうですね。3回目のワクチン接種でありますけれども、直近ですと、4月13日、昨日時点の速報値ですが、全年代の合計で本県は52%となりました。全国平均は46.4%で、それを上回っております。全国第3位まで、本当に、躍進したなという言葉は私は使ったところでありましたけれども、山形県大変雪が多くてですね、冬の間、大雪が何回も続いたりして、高齢者の方もなかなか自宅の外へ踏み出すということもなかなか大変な状況があったりして、冬の間はなかなか進まなかったんです。そういう季節の事情というのが一つはあります。あと、もう一つは、今記者さんおっしゃったようにですね、ファイザー、ファイザー、モデルナというような交互相種というのでしょうかね。それに対する、やはり、ファイザーを希望する方のほうが多いというようなことはあったやに聞いております。ですが、最近になってこのように、大変ワクチン接種が進んできたということを考えますと、年代にもよるのですけれども、高齢者の皆さんは、もう本当に8割9割までいっていますので、交互相種に関してはとにかくどちらということではなくて、「3回目受けたほうがいい」というように、そのように決心されて受けられているんだろうなというふうに思っております。

ただ、現役世代のうちですね、20代は27.2%、30代は28.3%、40代は39.2%という状況でありまして、いずれも4割には達していないということがあります。

ただ、これは交互相種の心配なのかどうかちょっと分かりません。なぜかと言うとですね、若年層の本県の2回目接種というのは、その時期が昨年10月下旬～11月頃に多かったということを聞いておりまして、4月下旬以降には、2回目接種から6ヶ月が経過して、現役世代の接種者が徐々に増えてくるのではないかというふうにもちょっと考えているものですから、2回目の接種が遅かったというようなことも一つあるかなと思っております。

それと合わせて交互相種に対する懸念がどのくらいあるのかはですね、ちょっと今、私お答えするデータがないので、後で担当のほうに聞いていただければと思います。

記者

1点だけ。関連で確認ですけれども、たとえば4月になって、国からのファイザー供給量が増えてきて、県民の要望にある程度応えられるような状況になってきたということはありませんか。

知事

それはちょっと、私、担当のほうからまだ聞いておりません。

記者

ありがとうございます。

記者

河北新報の栗原です。よろしくお願いします。

夏に迎える参院選についてお尋ねしたいのですが。参議院は、県内の実情を東京、中央に伝えるという役割も一つあると思いますけれども、現状、県内で構図が固まっていない状況に対して、知事として今どのようにお考え、受け止めているか教えてください。

知事

受け止めですか。参議院選挙ということで、夏にその選挙があるということは承知をしておりますけれども、本当に様々な報道がなされておりますけれども、私からは特に申し上げることはありません。

記者

今までは「恩返し」という言葉が一つ、合言葉と言いますか、知事はそういった姿勢を貫いて来られたと思いますけれども、今回はどのような姿勢で参院選に関わるか教えてください。

知事

はい。でも夏の参議院選挙でございまして、今本当に、先ほど来から、いろいろ新型コロナウイルス感染症に対するご質問が多々ございましたけれども、本当に目の前の、今からどうなっていくのかというようなことがあったり、あと経済回復と両立しなければいけないとか、あと様々なそれ以外の施策ということについても、今、各部から重点事項の説明を聞いたりもしているところでありまして、まず目の前の公務に邁進したいというふうに考えております。その先の参院選まではちょっと今、考えていないところです。